

福津の干潟と里山

市には海や川、山など豊かな自然環境があります。しかし、ごみの不法投棄による環境の悪化や、開発による自然環境の減少などのさまざまな問題を抱えています。そこで今回は、福津の環境保全に取り組み「干潟みまもり隊」と「里山みまもり隊」の活動を紹介します。

問い合わせ 市うみがめ課 ☎62・5019

津屋崎干潟

津屋崎漁港から1.5kmほど内陸にあり、もともとあった大きな干潟の一部です。大きな流入河川がなく、淡水の影響をあまり受けていない全国的にも珍しい干潟です。干潮時には広大な干潟が現れ、カブトガニや貝類、カニ類などの絶滅危惧種などが多数生息しており、クロツラヘラサギなどの渡り鳥が飛来します。



津屋崎干潟とは

干潟とは、潮が引いたときに現れる遠浅の浜のことです。二枚貝やアマモによる水質浄化機能や、幼魚、稚貝の育成場所など生物多様性を持続する場で、海の生き物や漁業を営む人に重要な自然環境です。

津屋崎干潟は、周辺の農業用水路と共に平成28年度環境省の日本重要湿地500に選ばれました。ここでは、カブトガニやクロツラヘラサギなどの希少生物を見ることができます。

しかし、岸辺に不法投棄されたり、漂着したりしたごみが多いことや、絶滅が危惧されるカブトガニの産卵と個体数の減少していることなどが問題になっています。また、潮干狩りの時期になると、小さなアサリまで乱獲されることで、アサリの数が激減しています。このままでは貴重な津屋崎干潟の環境が失われてしまうかもしれません。

竹尾緑地とは

里山とは、人間生活や農林業の営みと深い関わりの中で成り立ち、人が絶えず手入れしてきた自然環境です。しかし、生活様式が変わるにつれて、人々の生活を支える場所としての役割を失い、日常生活と離れた存在になってきています。近年、日本各地では人の手が入らないために、里山の荒廃が進み、多くの動植物の生息場所が失われつつあります。実際に、カスミサンショウウオやメダカ、タガメなど多くの生き物が絶滅危惧種に指定されています。

竹尾緑地は、住宅地そばの貴重な里山です。希少生物のカスミサンショウウオやヤマアカガエルなどが生息しています。これらの動植物を守るためにも、昔と同じように里山の手入れが必要とされます。



竹尾緑地

国道3号線の沿線にある、住宅地や商業施設に囲まれています。湿地帯や小川、雑木林があり、市のモデル地区として保全活動に取り組んでいます。カスミサンショウウオやヤマアカガエルなどの希少生物が多くいるほか、ヤブツバキやヤマザクラ、ハンゲショウなどの植物も自生しています。



津屋崎干潟の生き物

カブトガニ

クモやサソリに近い生き物です。近年では生息地が失われつつあり、生きた化石とも呼ばれる絶滅危惧種です。



クロツラヘラサギ

トキの仲間、冬期に津屋崎干潟や周辺の水路に飛来します。他の鳥がいてエサが豊富なところを好みます。



竹尾緑地の生き物

ヤマアカガエル

森林の中で生活し、あごの下に斑紋がほとんどないことが特徴です。冬から早春にかけて溝や湿地に産卵します。



カスミサンショウウオ

幼生は水中で生活し、やがて上陸し、雑木林や竹林で生活します。林の近くの溝や湿地で産卵します。



2つのみまもり隊

津屋崎干潟と竹尾緑地には、それぞれの自然を守ろうと活動している市民が主役の団体があります。昨年の12月16日に行われた環境フォーラムで活動発表をした3人にお話を聞きました。

干潟みまもり隊

平成21年3月に津屋崎干潟を守り、後世に引き継いでいくために結成されました。主に干潟に漂着するごみの回収や、ハマボウやハママツナといった岸辺の植物の手入れを行っています。



▲漂着ごみの回収

私は、津屋崎郷づくり推進協議会の会長を務めていた平成21年に干潟みまもり隊の存在を知りました。津屋崎で生まれ育った私にとって、干潟があることは当たり前でしたが、漂着ごみが多いことなどの現状を聞き、貴重な生き物や植物が見られるこの干潟を守りたいと思い、活動に参加しました。人数が少なく限られた範囲での活動ですが、メンバーそれぞれが無理をせず、身の丈に合った活動をしています。この活動を始めて、ハマボウやハママツナといった植物に興味を持つようになりま



▲結成当時から参加している 寺島龍海さん

した。津屋崎干潟の中でも特に渡区側の干潟に自生するハマボウは、津屋崎固有の遺伝子を持つ貴重なものです。これを増やすために種から苗を育てる活動もしています。いつかはこのハマボウが津屋崎干潟のいたるところで見られるといいなと思います。

干潟があることを当たり前だと思っていました

活動に参加してさらに自然が好きになりました

里山みまもり隊

平成23年11月に市街地に残る貴重な里山環境を守るために結成されました。主にカスミサンショウウオの産卵場所となる湿地や水路の手入れや、繁茂しすぎた植物のせん定や間伐を行っています。



▲水路の手入れ

10年ほど前に「環境リーダー養成講座」に参加したことが、里山みまもり隊に参加するきっかけでした。講座の中で、竹尾緑地のことを知り、もともと自然が好きだった私にも何か役立てることがあればと思いついて、参加しました。始めた頃は、湿地帯や小川が整備されておらず、荒れた状態だったため、当時30人ほどいた隊員で木を切り倒したり、水の流れを作ったりして生き物が住みやすい環境を作りました。現在は人数が減りましたが、カスミサンショウウオが産卵しやすいように川底を掘った



▲結成当時から参加している 片山博美さん

り、植物の手入れをしたりしています。隊員一人一人がいろいろな知識を持っているので、日々、知恵を出し合っていて話し合いながら楽しく活動しています。将来的には竹尾緑地がホタルの乱舞や、多くの種類のトンボが鑑賞できる場所になればいいなと思います。



▲干潟と里山、両方の活動に参加しているみまもり隊の宮村豊さん

する上で、自然を守るという共通の目標がありますが、私の場合は仕事や趣味で得てきた知識を活かす場や生きがいにもなっています。私がそれぞれの活動に参加してから、およそ2年が経ちました。しかし、私が隊員になって以降、新たに加入した人はいません。まずは津屋崎干潟や竹尾緑地のことを知ってもらい、そして、少しでも私たちのみまもり隊の活動に興味を持ってもらえればと思います。

貴重な福津の自然を一緒に守りませんか

みまもり隊の

隊員を大募集

干潟みまもり隊と里山みまもり隊のそれぞれの活動は毎月1回行っています。しかし、少ない隊員と隊員の高齢化により、十分な活動ができていないのが現状です。1人でも多くの皆さんに参加してもらおうと活動がさらに活発になります。私たちの活動のモットーは「できることをゆっくりやろう」です。自然を守ることが共通の目標ですが、生きがい作りや健康づくりのために参加してみませんか。体調が良いときや、天気が良いとき、気分が向いたときだけでも構いません。興味をお持ちの方はお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ
市うみがめ課 ☎62・5019



▲干潟みまもり隊



▲里山みまもり隊

活動が私の生きがいになっていきます

私は、里山みまもり隊の存在を2年前に見た広報で知りました。退職後、自然環境と関われるような社会貢献活動ができればかと考えていたので、すぐに参加しようと思った。その後、津屋崎干潟で毎年7月に行われているハマボウ観察会がきっかけで、干潟みまもり隊にも参加し始めました。市外から移り住んだので、最初は津屋崎干潟や竹尾緑地の場所さえ知りませんでした。活動がきっかけでそれぞれの自然の良さを知り、自然豊かな福津市に住んで良かったと感じています。活動